

会 議 録	
会議の名称	平成 29 年度第 2 回今治市水道事業経営審議会
開催年月日	平成 29 年 11 月 30 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分
開催場所	今治市役所第 2 別館 11 階特別会議室 1 号
出 席 者	（出席委員） 内藤一郎、門田勝彦、越智勝則、村上恵子、村上真由、井村勝利、 越智道人、阿部宏 （事務局） 阿部正志水道部長、 水道総務課：正岡宏樹次長兼課長、砂田栄二課長補佐、 矢野和郎課長補佐、鴨崎広喜係長、梶川ゆか係長 水道工務課：福本恭二次長兼課長、矢野浩明課長補佐、渡部俊次係長
議 事	1 会長あいさつ 2 議題 （1）水道料金の算定について 3 その他
会議の公開または非公開	公開
傍 聴 者	無し

【 会議の概要 】

1 会長あいさつ

2 議題

（1）水道料金の算定について

説明資料に基づいて、事務局から説明。

○質疑応答等

（内藤会長） このグラフを見る限り、全域の所を見ると、何も損失を補填しなくても、十分黒字じゃないかと思ったりするんですけど。

（事務局） 平成 22 年度に料金統一をする際に、島嶼部の料金を下げたという所で、赤字の 1/2 を税金で補填しようという所で統一した経緯があります。

（内藤会長） 現時点では、黒字なんだけども、将来的な事を考えると黒字幅をもっと大きくしなければいけない、という事ですかね。

（事務局） 単年度の収支を見て、繰り入れの額が決まってくるんです。今回、水道料金についてご審議いただく際には、今後の費用の動向、設備の更新とかを勘案した、長期的な観点で、どういう料金がいいかを考えていただきたい。長いスパンで考えると、今の料金のままでは収支が

とれなくなると思います。

(門田副会長) 先でそのような経費が出て来るというのは、今からの説明で出て来るんですか。

(阿部委員) 資本費の充当の話をしてあげたら。先行投資をしている訳ですから。

(事務局) 経年的な収支の変化については、次回の審議会の時に説明します。

(阿部委員) 繰入を解消するという事が、全体での繰入の解消ならいいんですけども、島嶼部だけの繰入の解消をするという風にとれるんですけどね。

(事務局) 基本的には、全域の所で最終的には考えて行きます。

(阿部委員) 島嶼部の水道料金も、陸地部の水道料金も一緒である事には変わらないという事ですね。その説明を加えてあげると勘違いされるんじゃないかと思いますよ。

(事務局) 今治市全体の料金は同じという考え方で進めます。

(阿部委員) 全部、団子にしといて、最終的には繰入を無くして行くんだけど、数%あげたら、島嶼部の繰入のお金が相殺されてしまうから、全体では水道料金の原価は一緒にしようという事ですね。その辺加えてくれんと、これだけでは、全然方針が見えん。

(内藤会長) 緑の部分（一般会計からの補助金）というのは、市全体の予算の金額になりますよね。これは、島嶼部云々という事は無いですね。

(事務局) (補助金の) 額の算定については、島嶼部の収支で考えて今治市全体の水道事業会計で受け入れるという事です。

(阿部委員) 島の人の方が、お金を余計出さないかんという事では無いですね。

(内藤会長) 今は、島嶼部と陸地部で分けてますが、いずれ、そういう事を議論なくていい時期が来るんでしょうね。

(阿部委員) このグラフが水道会計のみであるんなら、島嶼部、陸地部を分けずに説明したんでいいのかなと思います。

(内藤会長) なんとなく、歴史的なものがあるのかも知れません。

(井村委員) 口径別に変える予定は有るんですか。

(事務局) 用途別から口径別に変えるのは、どんな風に料金に影響が出てくるのか、その辺を、かなり綿密に研究もして、対策も講じなければならぬと思います。

(井村委員) 猶予期間が必要ですよね。工事する人もおるし。

(事務局) かなり慎重に研究しないといかんと思います。

(井村委員) 近隣で実施しとる市・県はどこらになりますか。

(事務局) 「水道料金別紙3」に、愛媛県内の各市町の例を挙げております。

(阿部委員) 使う水の量を日最大で考えた時に、水の利用を促進して行く立場か、抑えていくのか、経営だけを考えるのかマッチングが必要だと思うんですけど、水道部さんは、どう考えておられるかいうのを、前もって

提示してくれた方が、話は進め易いような気はします。

(事務局) 今の水源で、最大使う時でも、水が足らんという事は無いです。十分な余裕が有ると考えております。喝水になった場合には、予備水源等で対応して行きたいという風に考えております。マッチング的な考え方は、料金収入があがるのが水道としていいと考えてございます。

(阿部委員) 今まで打ち抜きだったのが、水道水を使うようになって、何割も上がったら、今の時期やったら、困る事が起きる可能性が有るという気がするんですけどね。

(事務局) 今の普及率は、97.8 と、ほぼ 100%に近い所なので、特に心配はして無いです。

収益を上げるために、どんどん水を使うてもらわんといかんという風な事と、水源の限られた量とのマッチング。水を使うていただく事については、市の立場としては、節水をしてくださいという事は、基本的なスタンスとしてあって、市民の皆様にもそういう事でご理解いただいとんだと思うんです。

(阿部委員) 人口減とかで水の量が減つとるのは確かだと思うんですけども、平成6年の干ばつにおいて、非常に皆さん苦慮し、そこで打ち抜きの本数が増えたんですね。水道は、1.5 気圧から2気圧ぐらいの水圧がかかっていますから、非常に利便性が高いという中で、打ち抜きの電気代で水道の水が担保出来るんで在れば、私だって多分水道を使うだろう。そういう事も念頭には入れるべきかなという気はするんですけどね。あくまで、節水が浸透して、有収水量と言うか、水道の原単価が下がっておるという事では無いんじゃないかなと。それが、今この時期なんかなという考えを聞いたかっただけですから。反対している訳では無いです。

(内藤会長) 今の質問の趣旨というのは、ちょっとよく分らなかったんですが。

(阿部委員) 料金算定基準を、委員さんに最終的に諮って行こうとしとる訳でしょ。水利用を促進するという事であれば、逓減型もありきで考えて行こうとしとんですか。

(事務局) 逓減という事までは想定に入っていないと思うんですけど。

(阿部委員) 水を使うのを促して行こうという事に、一番近い、直近で言えば逓減型ですよ。

(内藤会長) 逓減の提案は無かったという事でよろしいですね。基本、今は逓増型を採用している。口径別にするか、それとも用途別にするかという、この二つの話で、将来的には、そういう事を考えなければならないという事ですね。

(事務局) 前回の審議会で、口径別の料金について言及もされておりましたので、一つの課題として残って行くという風になります。

- (阿部委員) 加入金は、口径別というのは変わらないですよ。
- (事務局) はい。それは、また別の話になりますので。
- (内藤会長) 業務用の場合、今現行は 10 m³、これを 5 m³に区切りを変えても収益の方はあまり変わらないという風に今おっしゃたんですかね。
- (事務局) 業務用は、10 のまま変更しないです。
- (内藤会長) 5 m³以下の使用者が多いんだけど、特に変更しないという事の理由は、あまり変わらないとおっしゃったのは、僕の勘違いですかね。
- (阿部委員) 収入を下げたくないから。
- (内藤会長) このままで行きたいという事ですかね。
- (井村委員) 安定収入に欠けると。
- (阿部委員) 資産維持率を、2 %を今治市が採用するという事なんですけども、それによる影響っていうのは、ライフサイクルコストを、延命化をどう取り組んで行くかという、施設更新のサイクルとして、2 %が適当であるという考え方で今治市は行くんですか。
- (事務局) 料金値上げを抑えようという所で、2 %を採用しております。
- (阿部委員) 今までの水道事業をやって来た今治市の実績としては、2 %で十分やれる見込みがあるという事ですね。
- (事務局) はい、そうです。
- 3 %というのが、水道協会の出しとる数字なんですけど、その根拠は、私らもなかなか理解が出来んのですね。統計的な難しい計算なんかもありますし。
- (阿部委員) 結局、積み重なったんですよ。耐用年数って言いながら、施設、機械、電気、電線なんかもの凄い短いですし、コンクリートとか管材なんかはもっと伸ばす事が出来るし。
- (事務局) 施設のライフサイクルも有りましょうし、自然災害でありますとか、リスクも、物価の上昇とかも入っと思うんです。科学的に、どれぐらい堅い数字なんかよく分らんですが、3 %というのが、一つの目安としてあります。最近の経済の、物価の上昇とかで考えたら、それを下回ってする事は、多分安全な範囲だろうと考えています。
- (阿部委員) 耐震化、水質基準の高度化、環境上の基準値が高くなれば、当然投資コストが高くなるという中で、ちょっと大丈夫なんかなという事で質問させていただきました。
- (内藤会長) 3 %じゃ足りないんじゃないかと？
- (阿部委員) 2 %ですから、3 %に比べたら少ない。年間かける経費を見込んだんが、100 年なら 100 年のサイクルの中で、本当やったら 1 年間に 3 億円かけないかんとこを 2 億円かけましょうという考え方ですから。逆に言えば、延命化している。本当は、全体で 50 年しかもたないものを、1.5 倍の 75 年使って行きましょうと。置き換えれば、そういう考え方です。

(事務局) 3%の中に、施設の更新もありますけども、ライフサイクルの経費、物価上昇なんかの経済的な要素なんかも入って来とるんですが、そういう場合、3%はいつ頃出来たのか、物価の上昇率が2%とか3%の時代に出来たのであれば、今のようなデフレの時代であれば、その3%は下がって行くような事があってもええんじゃないかと思うんですけど、そういう風な改定はされてないみたいなんです。そういう事もあって、今治の場合は、2%という風な所で、前は落ち着いた来たんだと思います。

(内藤会長) 消費税が上がったら、これはどう影響が出るんでしょうか。あくまで、現行の消費税を考えて計算が成り立っているんですよね。10%に上がるというのは来てる訳ですから。それに関しては、今回入ってない。それが、もし10%になった時点で、変えるとしたら、さらに3年後に変える訳ですね。

(阿部委員) これは、消費税抜きじゃないですか？入りですか？

(内藤会長) わかりました。

(村上恵子委員) 水道料金が上がると、打ち抜きとか増えるという検証になりますよね。あまり高くなると、高齢化も進んで来て、水道の消費も落ちますよね。

(事務局) 実際、皆さんの水道の使い方がどういう風になるかというのは、統計的に推測出来るような調査をしなければならないんですけど、そこまで、経費も要る事ですので、その辺は、印象的な事になりますけど、打ち抜きに変えたからという事で、全体の水道会計が変わって来るような規模ではないと思います。

(村上眞由委員) 意外と今治市の水道って安かったんだなと思います。下水道が同じ位かかるので、水道料金は結構高いイメージがあったんですけど、下水道は別なので、思った程はかかってないなと思いました。基本水量というのは、これは変わらないですか。基本の水量というのは、5 m³ですかね。次回は、変わらないですか。

(事務局) 今回は、5、8、10 という数字をお示ししたんですが、皆様に、次回この金額の推移も含めてご検討いただきたいと所でございます。

(内藤会長) 変えてみたら、収益がこのように変わりますよという試算をお示しくださるんですね。

(事務局) その予定でございます。

委員の皆様が、細かい所までをいちいち詰めて行くという事までは、中々難しいと思うんですけど、全体の傾向を、ある程度意見を纏めていただける事があれば、改定があれば反映をさせて行く事が出来ると思います。

(越智委員) 町内で、今、終末処理場が出来ておって、それに対して繋ぎ込みをして行きようる所ですが、それに対して、水道の料金がもの凄く高くなって来る。普通の水道使用料と違って、それに伴って料金がかなり上がって来る

と思うんよ。水道の料金も安いに越した事はないけどね。

(阿部委員)

水道っていうのは水を綺麗にはするんですけども、下水を公共水域に放流するために綺麗にする経費の方が高い。今までの皆さんは、河川や川に垂れ流すのが当たり前やったという感覚で、それに何でお金がかかるんやというような年配の方が多いですけどね。下水道料金の方が高くて当然という気持ちには、私はなりません。

(越智委員)

せつかく、その設備が出来ても使っていない人が多い。水道は安い方がええと思うけど、今の状態見よったら、維持するためには、ある程度料金上げて行かんと出来んという事は感じますね。

(内藤会長)

水道も下水道もそれなりにメリットがあるので、それなりに費用負担は止むを得ないという事です。

もう一度全体をちょっと見直して、皆さんから何か有ればとは思いますが。

(阿部委員)

今までのやり方を継承するというのは、問題を、対応的に現状維持、料金だけの改正で済まそうという事ですか。

(事務局)

口径別とか、いろんな話があると思うんですけども、将来的な課題として、解決して行かないかんという事なんですけども、いつから着手するかとか、そういう風な事までは、まだ。

(阿部委員)

要するに、今は避けて通るという事？

(事務局)

いついつまでにやれとか決められたら、やらんといかんのですけど。

(阿部委員)

わかりました。

(内藤会長)

あまり仕組みをいじらないという事です。3年毎に料金改定をとという事に関しては、変更もないという事です。3年毎に上がるものって、そんなに無いですよ。

(阿部委員)

3年毎に必ず上がる訳ではないですから。

(内藤会長)

支払利息というのが有るんですけど、水道事業の中では、どういうものが支払利息で出て来るんですか。

(事務局)

施設を整備するために、借入をします。それに対して利息が付きまします。で、その利息を支払って行きます。

(内藤会長)

現実にどれ位の金額があるんですかね。全体の予算の中で、%で言ったら。ここで言う総括原価の中に占める支払利息の割合です。10%以上有るのか、或いは、数%なのか、概略でいいので。

(事務局)

借入金の利息と言いますと、定期預金の金利でも10年ものでも0.01%、そんな感じになってまして、借入した場合も最近では、0.1%ですね。

(内藤会長)

でも、元金も払わなければいけないですね。

(事務局)

元金は、払う代わりに資産として残りますから、元金までは費用に入れないです。

(内藤会長)

一般の家のローンとは違う考えなんですね。

(事務局) 元金を払う事を費用の中に入れる代わりに、減価償却費として。そういう費用は、10年間で料金から回収して行きましょうという事で。支払利息は、これから年々減って行くというような状況でございます。30億円位の収入の中で、1億円の利息を払ってます。

(内藤会長) じゃあ、3%ちょっと位の割合ですね。わかりました。

(会議終了)